

令和6（2024）年度「卒業生採用に関するアンケート調査」結果概要

I. 調査時期、対象施設、回収結果

調査時期：令和7（2025）年1月

対象施設：令和5（2023）年度看護学科・医療介護福祉学科卒業生就職先

調査方法：Google フォームを用いたオンラインアンケート

回収結果

| | 対象施設 | | 回収数 | 回収率 |
|----------|------|----|-----|------|
| | 施設数 | 件数 | | |
| 看護学科 | 43 | 68 | 45 | 66% |
| 医療介護福祉学科 | 10 | | 10 | 100% |

- ・対象施設：看護学科では1施設あたり複数部署に送る場合があるため、施設数と件数を示している
- ・回収数：看護学科は件数、医療介護福祉学科は施設数を示す。回収率も件数による

II. アンケート結果および分析

1 施設基本事項

1) 地方・都府県別回収数

| 地方 | 都府県 | 看護学科 | | 医療介護福祉学科 | |
|------|------|------|-------|----------|-------|
| | | 地方別 | 都道府県別 | 地方別 | 都道府県別 |
| 関東地方 | 東京都 | 2 | 1 | | |
| | 神奈川県 | | 1 | | |
| 近畿地方 | 兵庫県 | 1 | 1 | | |
| 中国地方 | 岡山県 | 40 | 32 | 9 | 8 |
| | 広島県 | | 6 | | |
| | 山口県 | | 1 | | 1 |
| | 島根県 | | 1 | | |
| 四国地方 | 香川県 | 2 | 1 | | |
| | 愛媛県 | | 1 | | |
| 未回答 | | 0 | | 1 | |

2 調査項目

A 採用について

1) 採用で重視する資質・能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

| 項目 | 看護学科 | 医療介護福祉学科 |
|----------|------|----------|
| 共感力 | 4.4 | 4.1 |
| 誠実性 | 4.7 | 4.7 |
| 一般常識・マナー | 4.6 | 4.4 |
| 対人関係構築力 | 4.6 | 4.5 |
| 情報伝達力 | 4.3 | 4.2 |

| | | |
|-------------|-----|-----|
| 傾聴力 | 4.4 | 4.0 |
| 柔軟性 | 4.5 | 3.9 |
| 基礎学力 | 4.2 | 3.6 |
| 専門的知識・技能 | 3.9 | 3.9 |
| 論理的思考力 | 3.9 | 3.3 |
| 役割遂行力 | 4.1 | 3.9 |
| 責任感 | 4.6 | 4.3 |
| 倫理観 | 4.7 | 4.3 |
| 主体性 | 4.3 | 4.0 |
| 探究心 | 4.1 | 3.5 |
| 課題解決力 | 3.9 | 3.6 |
| ストレスコントロール力 | 4.3 | 3.7 |
| 自己管理能力 | 4.3 | 3.9 |

その他重視している事項（自由記述）

看護学科：回答数5件、()は件数、それ以外は1件

- ・コミュニケーション力(2)
- ・語彙力・共感性・社会人基礎力
- ・自己認識力・リフレクションを学びにする力
- ・協調性・組織コミットメント

医療介護福祉学科：回答数1件

- ・体調管理

【分析】

採用時に重視する能力は、看護学科ではいずれの項目も3.9～4.7、医療介護福祉学科では「論理的思考力」が3.3であったほかは3.5～4.7であった。両学科共に「誠実性」「対人関係構築力」が4.5～4.7と極めて高く、看護学科では「倫理観」「一般常識・マナー」「責任感」「柔軟性」も4.5以上で非常に高かった。一方、両学科共に他に比べて比較的低かった(4.0未満)のは「専門的知識・技能」「論理的思考力」「課題解決力」で、医療介護福祉学科では「基礎学力」「探究心」「ストレスコントロール力」も低かった。全体的な傾向としては、「専門的知識・技能」「論理的思考力」などの知識や汎用的技能を有していること以上に、態度や人柄、対人援助職としての資質を身につけた人材が望まれていることがわかる。

2) 面接で重視する事項（自由記述）

看護学科 15 件

- ・第一印象
- ・コミュニケーション力
- ・素直さ・コミュニケーション力
- ・柔軟性、ストレス対応力、健康面、コミュニケーション力、倫理観
- ・誠実、忍耐力、協調性
- ・態度、姿勢、清潔感
- ・人間性、社会人基礎力
- ・質問に対する答え方
- ・コミュニケーション力、今までの学生生活等の経験の中で培われた能力
- ・当院の理念を理解し共感しているかどうか（多機能病院であり高齢者が多いことを理解しているかどうか）
- ・当院で看護師として働くイメージがどの程度あるか
- ・どんな看護師になりたいかなど自身の考えを伝えることができるかどうか
- ・看護に対する自己の考え方や実践力

- ・医療人になる覚悟があるかどうか
- ・転職している場合その職歴

医療介護福祉学科 4 件

- ・第一印象
- ・表情、姿勢、キャリアビジョン
- ・話を聞く姿勢、考えを伝える力
- ・チームでの連携が図れるどうか

【分析】

昨年度までは面接時の態度に関する多肢選択式であったが、選択される回答が固定されてきたことから本年度は記述式で回答していただいた。

記述式であるため回答は多岐にわたっていたが、両学科とも、コミュニケーション力、情報伝達力（「自身の考えを伝えることができるか」「考えを伝える力」）、質問に対する答え方といった言語コミュニケーション、第一印象、態度、姿勢、表情、清潔感などの非言語コミュニケーションを重視する意見が多くを占めた。また、職場への理解（「当院の理念を理解し共感」「当院で働くイメージがあるか」）や目指す職種に対する考え方（「どんな看護師になりたいかを伝える」「キャリアビジョン」）など、職場への適合性や対人援助職者としての将来設計を重視する回答も見られた。

B 採用した本学の卒業生について

1) 本学卒業生の印象

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

| 項 目 | 看護学科 | 医療介護福祉学科 |
|-------------|------|----------|
| 共感力 | 3.4 | 3.1 |
| 誠実性 | 3.7 | 3.8 |
| 一般常識・マナー | 3.4 | 3.3 |
| 対人関係構築力 | 3.2 | 2.8 |
| 情報伝達力 | 3.1 | 2.7 |
| 傾聴力 | 3.4 | 3.2 |
| 柔軟性 | 3.2 | 3.0 |
| 基礎学力 | 3.3 | 3.7 |
| 専門的知識・技能 | 3.1 | 3.4 |
| 論理的思考力 | 3.1 | 3.1 |
| 役割遂行力 | 3.3 | 3.2 |
| 責任感 | 3.6 | 3.4 |
| 倫理観 | 3.3 | 3.3 |
| 主体性 | 3.1 | 2.8 |
| 探究心 | 3.1 | 3.0 |
| 課題解決力 | 3.0 | 3.0 |
| ストレスコントロール力 | 3.2 | 2.8 |
| 自己管理力 | 3.2 | 3.0 |

その他の印象（自由記述）

看護学科：9件

- ・前向きに意欲的に働いており、周囲の評判も良い
- ・誠実な対応ができる。責任感がある
- ・常に自分事として関心をもち、情報収集力が素晴らしく、キャッチした情報を活かし仕事ができている
- ・真面目な印象
- ・自分から少しずつ発信できるようになった
- ・自信がなく内向的ではあるが、素直で前向き。感受性が豊か。楽観的ではなく、一つ一つの出来事に真剣に向き合い、自身の課題を見つけて、自己学習や努力ができる
- ・ラウンド時の様子であるが、緊張からか表情が硬い時期がしばらく続いていた。夜勤に入る目途が立った頃から笑顔が見られるようになり安心している
- ・協調性や協力体制が弱い
- ・個人差が大きく回答が難しい。貴校だけではなく、入職1年未満という点からも適応段階であるため、努力する姿勢を大切にしながら経験を通して成長できるよう支援している

医療介護福祉学科1件

- ・とても素直で言われたことはきちんとできる。メンタルコントロールや体調管理には不安がある

【分析】

本学の卒業生の印象として、平均値が4.0を超えた項目はいずれの学科にもなく、従来以上に厳しい評価となった。その中でも3.6以上の比較的高い評価を得た項目は、看護学科では「誠実性」「責任感」、医療介護福祉学科では「誠実性」「基礎学力」であった。一方、3.1以下と比較的評価が低かった項目は、看護学科では「情報伝達力」「専門的知識・技能」「論理的思考力」「主体性」「探究心」「課題解決力」、医療介護福祉学科では、「共感力」「対人関係構築力」「情報伝達力」「柔軟性」「論理的思考力」「主体性」「探究心」「課題解決力」「ストレスコントロール力」「自己管理力」であった。これらの項目では、いずれも「やや劣る」「劣る」の割合が高かった。「劣る」という評価のあった項目は、看護学科では「対人関係構築力」「柔軟性」「主体性」「探究心」「課題解決力」「ストレスコントロール力」、医療介護福祉学科では「対人関係構築力」「情報伝達力」「主体性」「ストレスコントロール力」「自己管理力」であった。多くの卒業生は「普通」以上の評価を得ているものと思われるが、わずかな人数でも「劣る」「やや劣る」の評価を受ける卒業生がいると、そのことが本学に対する評価を下げる可能性がある。個人の資質・能力によるところもあると思われるが、今回評価の低かった項目は後述するディプロマ・ポリシーの能力（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）とも関連することから、大学全体で学生のこれらの能力を伸ばす工夫が必要である。「その他の印象」として自由記述に回答くださった評価は良いものが多かった。

2)-1 ディプロマ・ポリシー（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）に対する看護学科卒業生が身につけている能力の割合

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した（小数点第2位で四捨五入）

| 項 目 | |
|------------------------------|-----|
| ①看護の現場で必要とされる看護技術の水準に到達している。 | 3.3 |
| ②根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。 | 3.1 |
| ③主体的に看護を探究する態度を身につけている。 | 3.0 |
| ④他職種と連携・協働する能力を有している。 | 3.1 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| ⑤医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を備えている。 | 3.3 |
|-----------------------------|-----|

【分析】

ディプロマ・ポリシーの①～⑤のいずれについても、評価点は3.0～3.3であり、卒業生はいずれの能力もおおむね修得できているものと思われる。ただし、「劣る」「やや劣る」の割合をみると、ディプロマ・ポリシーの①と⑤は10%未満であったのに対し、③は26.2%であり、「看護を探究する態度」に関する修得状況が低いと評価されていた。上述の「本学卒業生の印象」においても、このディプロマ・ポリシーと関連すると思われる「探究心」や「主体性」「課題解決力」などの評価が低かった。探究心や主体性、課題解決能力の涵養につながるような能動的学修を、今一層充実させる必要がある。

2)-2 ディプロマ・ポリシー（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）に対する医療介護福祉学科卒業生が身につけている能力の割合

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した（小数点第2位で四捨五入）

| 項 目 | |
|--|-----|
| ①生活支援が必要な人への介護実践能力を身につけている。 | 3.4 |
| ②医療介護福祉の専門知識を持ち根拠を明確にした介護ができる。 | 3.2 |
| ③豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職者と連携してチームケアができる。 | 2.9 |
| ④医療介護福祉の意義を理解し、人権擁護意識と職業倫理観を身につけている。 | 3.4 |

【分析】

ディプロマ・ポリシー①②④に対する評価点は3.2～3.4であり、「劣る」「やや劣る」という回答はなかったことから、卒業生はこれらの能力を修得できているものと思われる。一方、ディプロマ・ポリシー③に対する評価点は2.9であり、「劣る」「やや劣る」という回答が33.3%であったことから、「豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職者と連携してチームケアができる」という能力に関しては、十分に身につけていない卒業生がいるものと考えられる。上述の「本学卒業生の印象」においても、このディプロマ・ポリシーと関連すると思われる「対人関係構築力」「情報伝達力」「主体性」「ストレスコントロール力」がいずれも2点台の評価であった。これらの能力を涵養することで、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけることにつながるものと思われる。

3) 本学卒業生を採用したことの総合的満足度

5段階（5：満足、4：やや満足、3：どちらともいえない、2：やや不満、1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した（小数点第2位で四捨五入）

| | | |
|------------------------|------|----------|
| 本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度 | 看護学科 | 医療介護福祉学科 |
| | 4.2 | 4.1 |

4) 採用した学生について気づいた点（自由記述）

看護学科：11件

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・優しく患者に接している。一生懸命頑張っている ・病院にもなじみ、地域包括ケア病棟で楽しそうに働いている。これからも丁寧に育成していくので、病院への要望があればご遠慮なくおっしゃってほしい ・他校の卒業生の中で、コミュニケーション能力も高く協調性がある ・素直な子ばかりである |
|---|

- ・真摯な態度で責任感を持って看護が実践できている
- ・2024年度の入職者が特別優れているということはないが、2023年度入職者に比べると、人間性や倫理観など姿勢や態度面がずいぶん優れているように感じる
- ・これから協調性や協力体制の必要性がわかるような関わりをしていこうと思う
- ・就職した4名に期待したが、適応が難しい人が多く、途中退職者も出た。早めの異動も考慮できればよかったのかもしれない
- ・学習に向き合う姿勢がもう少しほしい。課題などについていけない傾向がある
- ・自主性が乏しく受け身の姿勢
- ・特になし

医療介護福祉学科 3件

- ・勤務実績も良く、教育の場で学んだ専門的知識を活用して、現場で力を発揮してくれている
- ・前向きに頑張ろうとする姿勢は好感が持てる。指導していく上で精神面に配慮した関わり方を意識している
- ・研鑽、経験を重ね知識技術の習得ができている。担当利用者の想いに寄り添ったケアができている

【3)4)の分析】

本学の卒業生を採用したことに対する総合的満足度は、看護学科では4.2で、「満足」と「やや満足」を合わせた割合は86%であった。医療介護福祉学科は4.1で、「満足」と「やや満足」を合わせた割合は77.7%であった。

採用した卒業生について気づいた点には、本学の指導に対する良い評価につながるものが多かった一方で、学習に向き合う姿勢や主体性などに関する意見、個人の資質に関する指摘などもあった。問題を抱える卒業生に関して、「状況などが分かっていたらと思った」という意見もあった。個人情報保護という観点から、学生の情報を就職先に事前提供することには限界がある。問題を抱える学生に対しては、就活支援などを通じて、適性を考えた施設選びを指導する必要があるだろう。

5) 本学学生に充実を求める能力など本学に対する意見、要望（自由記述、()内は件数)

看護学科：11件

- ・引き続き当院への入職をお願いしたい(2)
- ・情報交換会などもさせていただけると有難い
- ・優れた教育環境で丁寧な基礎教育がなされている
- ・他職種と連携し物事を進めていけている。協調性を持ち主体的に考え行動できている
- ・当院でも多くの卒業生にご活躍いただいている。近年は、院内でも看護師としての倫理観や接遇の強化についてよく指摘される。学生の中にそういった部分に触れる機会があれば良いと思う
- ・看護師の仕事は、決して楽しいだけでは終わらないため、様々な出来事に対して諦めず頑張れる人材を期待したい。また、専門職として生涯学ぶ姿勢が大切で、働き始める最初の施設が看護師人生を左右するため、一人一人を大切に育成していきたい。関東方面に就職を考えている学生がおられたら、当院をご紹介いただきたい
- ・学生の育成は難しいことだと思う。看護の現場は他者と協力して物事を行うことが必要なので、それが少しでも理解できる学生を育ててほしい
- ・アセスメント力に不足があり学習する力がやや弱いので、本人も行いたい看護ができてないという思いが強くなっている
- ・実習で習得することは難しいと思うが、時間管理能力を構築できていると就職してから困らないと思う
- ・人に伝える力（できること、無理なことを含めて）や振り返る力を身につけられるような教育・指導をしてほしい

医療介護福祉学科：3件

- ・介護福祉士を目指す学生が減少していく中で、一人一人を大切に育成される教育を継続していただきたい
- ・対人関係能力
- ・医療的ケアの充実や多職種での医療連携などは施設での取り組みと大学での学びがつながるところであるため、今後も当施設への就職を勧めていただきたい

【分析】

昨年度までは、本学の学生に充実を求める能力として3項目を選んでいただいたが、本年度は自由記述によるアンケートとした。多様な意見が寄せられたが、本学の教育を評価する意見（「優れた教育環境で丁寧な基礎教育がなされている」「一人一人を大切に育成する教育」）、大学に対する期待（「諦めず頑張れる人材の養成」）、受け入れた卒業生への期待（「自分でしっかり考えられる人に育ってほしい」）があった。一方、本学の教育に対する要望（「時間管理能力の構築」「人に伝える力や振り返る力を身につけられるような教育・指導をしてほしい」「倫理観、接遇強化に触れる機会を学生の間を持たせてほしい」「対人関係能力」）も寄せられていた。また、一部の卒業生に対する非常に厳しい意見が書かれていた。限られた例であろうと思われるが、今後とも個別指導を徹底するとともに、本人の適性にあった就職先の選択ができるよう指導していく必要がある。

今後の課題

1 大学としての課題と対策

令和5（2023）年度卒業生の就職先（病院・介護施設）の人事担当者もしくは上司に依頼して、本学の教育がそれぞれの専門職組織が求めている人材育成になり得ているかどうかについて、評価とご意見をいただいた。採用先からの評価やご意見を本学の教育改善に反映させることが目的である。

アンケートの質問内容は、昨年度までの社会人基礎力を中心にしたものから、対人援助職者に求められる資質・能力を中心にしたものに変更し、ディプロマ・ポリシー（学生が卒業時に身につけておくべき資質や能力）の達成度も評価していただいた。アンケートの回収率は看護学科66%、医療介護福祉学科100%であった。

その結果、総合的満足度（1～5の5段階評価）の平均値は看護学科4.2、医療介護福祉学科4.1で、おおむね満足という評価をいただいた。アンケート結果の分析を通して、誠実で責任感が強いという特長を伸ばすとともに、主体性、探究心、コミュニケーション力や協調性といった対人関係構築力の涵養を目指した能動的学修の充実に努める必要があることが示唆された。また、一部ではあるが、本人の適性に合った就職先の選択ができていなかった卒業生がいることが明らかになった。

今回の調査結果を受け、就職活動支援講座を低学年から行うとともに、大学と学科が連携し、入学時のオリエンテーション、講義や演習・実習、ホームルームでの担任の集団指導・個別指導などにおいて、対人関係構築力を育成する教育を繰り返し行っていく必要がある。特に臨地実習は、コミュニケーション力や協調性、探究心を伸ばさせる重要な機会となり得る。入学時から3年間の学生生活を通じて、将来の職場が病院や介護施設であるということ認識させ、学びと社会性に対する動機づけを図りながら、専門職に対する自身の考えを構築できる学生を育てていきたい。また、学生が自身の性格や特性に合った病院選びができるよう個別支援対策を強化していきたい。

2 学科の課題と対策

看護学科

本学卒業生の印象のうち、看護学科の卒業生は「探究心」「主体性」「課題解決力」の評価が低かった。5つのディプロマ・ポリシーのそれぞれの能力をどの程度身につけているかを尋ねた質問では、③「主体的に看護を探究する態度を身につけている」は5点満点中3.0点であった。看護師は、常に向上心をもって新しい知識や技術を身につけ、自ら考え、他者と協力して患者や家族に最善の看護を提供することが求められる。そのため、令和4（2022）年度から始まった新カリキュラムには「看護フィールドワーク論」や「看護研究」を組み入れ、「探究心」や「主体性」を向上させる教育を行っている。本年度は新カリキュラムにより教育を受けた学生が卒業する年に当たることから、次年度のアンケート調査によってその教育効果を検証したい。「課題解決力」を強化するために、課題解決型学習（PBL）を授業に取り入れるとともに拡充していきたい。

本学卒業生の印象の中では「情報伝達力」も低かった。情報伝達力は、患者に関する重要な情報を医療チームに的確に伝達し共有するために必要な能力である。伝達力を向上させることは容易ではないが、低学年からの演習や臨地実習を通して、情報整理の仕方や伝えるべきポイントを意識化する方法、また、相手の理解度に合わせたコミュニケーションの取り方などを指導することが必要である。「誠実性」と「責任感」については高い評価を得ており、本学科卒業生の強みになっている。

医療介護福祉学科

今回は、医療介護福祉学科が3年制課程になって初めて送り出した卒業生が評価対象であった。「卒業生の印象」のうち「誠実性」「基礎学力」は高く評価されていたものの、「対人関係構築力」「情報伝達力」「主体性」「ストレスコントロール力」に対する評価は低かった。4つのディプロマ・ポリシーの能力に対する評価でも、①②④は概ね修得できているとの評価であったが、③「豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職者と連携してチームケアができる」の評価は低かった。この結果と「対人関係構築力」「情報伝達力」「主体性」「ストレスコントロール力」の評価の低さは関連していると考えられ、これらの能力を身につけさせることが今後の課題である。すなわち、能動的学修を取り入れた教育を強化し、「傾聴力」や「共感力」、「情報伝達力」「主体性」を養いたい。傾聴力や共感力を高めることで「対人関係構築力」も強化したい。「ストレスコントロール力」は、心理学などの座学の講義で学修するだけでなく、実習指導などの機会を通じて個別に対応する必要がある。

今回、卒業生を採用した施設からのアンケートの回収率は100%であった。本学では就職先が実習先であることが多いため、就職先と日頃から密に連絡を行っていることも、その理由と考えられる。今後も就職先と連携して卒業生のサポート行うとともに、一人ひとりの学生に寄り添った就職支援を行いたい。